

令和3年度 第1回 サステナビリティ委員会 概要

<開催概要>

- 日時：令和3年7月30日（金） 9時30分～12時10分
- 場所：三重県庁講堂3階 131・132 会議室（三重県津市広明町 13 番地）
- 出席委員（50 音順、敬称略）：
 - ・速水林業 川端 基洋
 - ・志摩市 政策推進部 SDGs 未来都市推進室 加藤 行典
 - ・三重大学 ESD-SDGs クラブ 代表 小西 凌
 - ・三重大学 特命副学長（環境・SDGs） 朴 恵淑
 - ・四日市地域環境対策協議会 松田 裕樹
 - ・国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
省エネルギー部 部長 吉岡 恒
 - ・三重県商工会議所連合会 専務理事 吉仲 繁樹

<議事概要>

○事務局説明（資料2に基づき、以下の事項を説明）

事項1. 「三重県環境基本計画」に基づく主な取組等（概要）について

- (1) 環境基本計画の主な概要
- (2) 環境基本計画に基づく主な取組（概要）
 - ①環境基本計画の個別計画への反映等
 - ②具体的な取組事例（脱炭素、きれいで豊かな海）

事項2. 計画の推進・進捗状況

- (1) 「三重県サステナビリティレポート」について
- (2) 計画に基づく取組の評価・点検の手法（イメージ案）について

(主な意見)

- ・脱炭素の推進にあたっては、産業構造が大きく変化すると見込まれ、それに対応した施策の実施が必要である。
- ・「きれいで豊かな海」の視点は非常に重要であり、県民の皆さんに理解を深めていただくには、丁寧な説明が必要である。
- ・県民の行動変容を促すには、子どもの頃から、地球温暖化に対して何をすべきか、自らの行動がどのような成果につながるかを学んでいく必要がある。
- ・森林は二酸化炭素の吸収源として非常に重要であるが、現状、その健全性等を維持できているか（二酸化炭素を吸収したり、素材生産の場として活躍したりできる状態にあるか）疑問を持っている。
- ・「環境基本計画」は、さまざまな視点（経済発展や分野横断的な取組等）から捉えられており、評価したい。
- ・第9次水質総量規制（県の総量削減計画及び総量規制基準の策定）に注目しており、県民、事業者等への積極的な情報発信をお願いしたい。
- ・現在、志摩地域では藻場の減少が見られて、要因の究明が急がれている。

- ・大学生は、子ども達（高校生まで）や大人と比較して、SDGsや脱炭素に係る認知度が低い。今後、大学生の関心を高めていくことを考えていく必要がある。

○各委員の発表（一部委員は資料3に基づき紹介）

事項3. 各委員からの取組・参考事例紹介

【百瀬委員】

- ・プラスチックに係る資源循環の促進、食品ロスに関する課題等

【吉岡委員】

- ・第6次エネルギー基本計画の議論、建築物の脱炭素化に向けた取組（ZEBと地中熱利用の事例）、グリーンイノベーション基金の動向についての紹介

【川端委員】

- ・FSC森林認証への取組（※）についての取組について紹介
※尾鷲地域では、森林組合を中心に行政、林業、製材関係者が連携し、公有林・私有林を一体的に管理することで森林の健全性を維持するとともに、関連産業が活性化するための活動（養殖筏用材、内装材や家具、ヒノキオイルなど建築用材以外の用途を開拓）を進めている。

【吉仲委員】

- ・アフターコロナにおいて必要な視点（脱炭素、環境への配慮）と県行政への期待

【松田委員】

- ・四日市地域環境対策協議会の取組についての紹介

【加藤委員】

- ・プラスチックゴミのアップサイクル、企業等と連携したクリーンアップ活動の紹介

【小西委員】

- ・三重大学ESD-SDGsクラブの活動の紹介

【花嶋委員（意見書）】

- ・個別計画（温暖化対策や資源循環等）に対する評価
※環境基本計画の基本理念や方向性、重視するポイントが盛り込まれたこと、分野横断的なアプローチ、経済的な視点を取り入れられていること等
- ・環境基本計画に基づく取組の推進にあたっての助言

○委員長総括（まとめ）

- ・皆様の日頃の活動が、我々のめざす「スマート社会みえ」への推進力につながっている。
- ・サステナビリティ委員会の方向性、環境施策にどのように生かしていくかなど大きなヒントが得られた。